

No.24 下湯共同浴場

江戸時代後期（1603～1868 年）から蔵王温泉は周辺地域の観光地となった。万能薬であると、その水を信じて、人々は彼らの病気を治癒するために蔵王を訪れた。彼らは町の大部分を占める旅館に泊まり、温泉に浸かった。1860 年代まで上湯浴場はあまりにも混雑したので、村は山の脇下に下湯浴場を建設した。現在下湯のビルの外には石碑や足湯があり、その中にはお風呂と同じ温水が流れている。変色を防ぐために、訪問者は手または足を温泉に入れる前に必ず宝石類を取り外してください。